

# 静止気象衛星「ひまわり」の役割 と 後継機(ひまわり10号)の整備計画

## ひまわりの役割

ひまわりは安全・安心な国民生活・社会経済活動に不可欠な社会インフラ

### 防災

- ✓ 台風・集中豪雨・線状降水帯の監視・予測(特に洋上は唯一の手段)
- ✓ 観測データはスーパーコンピュータによる数値予報で処理され、予報・警報の基盤となっている。



### 国民生活

- ✓ 日々の天気予報に不可欠
- ✓ お茶の間に広く浸透



### 国際貢献

- ✓ 世界気象機関(WMO)における世界的な観測網の一翼を担う
- ✓ 地球環境・森林火災・噴火の監視



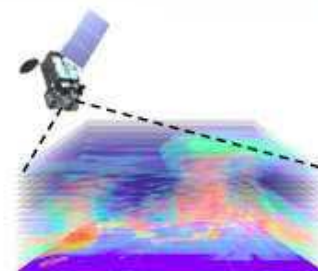
### 産業・交通安全

- ✓ 農業、観光等の各種産業における基盤情報として利用
- ✓ 航空機、船舶等の安全で経済的な航行に寄与



## ひまわり後継機の整備計画

- 現行の静止気象衛星ひまわり8号、9号は令和11(2029)年度までに設計上の寿命を迎える
- 線状降水帯や台風等の予測精度を抜本的に向上させるため、**大気の三次元観測機能「赤外サウンダ」など最新技術を導入した次期静止気象衛星の整備に令和5(2023)年に着手**
- 宇宙基本計画(令和5年6月13日閣議決定)に沿って、**令和11年度の運用開始に向け、着実に整備を進める**

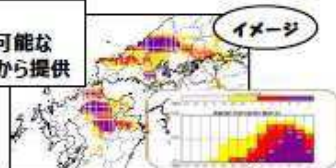


3次元観測イメージ  
(大気の立体的構造)



- ◎ 市町村単位で危険度の把握が可能な気象情報を半日前から提供し、早期避難による人的被害の最小化と物的被害の低減を図る

令和11(2029)年～  
市町村単位で危険度の把握が可能な  
危険度分布形式の情報を半日前から提供



- ◎ 台風の進路を正確に予測することにより、鉄道・空港などの的確な運用(計画運休)、広域避難等を可能に

3日先の台風進路予測精度を大幅に向上  
(H30年台風第21号の例)

黒: 実際の台風経路  
青: 現状の予測  
赤: 精度向上した予測

